教員の活動状況評価の実施結果について（令和7年度）

国立大学法人筑波技術大学では、教員個人の活動状況について点検・評価し、もって本学の教育及び研究等の向上に資するため、令和3年度に制定した教員の活動状況評価に関する規程に基づき、教員の活動状況評価を実施しています。

教員の活動状況評価は、「教育」、「研究」、「社会貢献」及び「管理運営」の4領域の活動について、各教員から提出された評価シートに加え、学内データ及び国立研究開発法人科学技術振興機構が運営する researchmap への登録状況に基づき、量的な観点から分析し評価するものです。

今回の評価は、「教育」、「社会貢献」及び「管理運営」については令和7年度の活動を、「研究」については令和5年度～令和7年度の3年間の活動を対象としています。

1. 対象者　95名（令和7年4月1日時点で在籍している対象教員）

	産業技術学部	保健科学部	障害者高等教育研究支援センター	その他
教授	17	11	7	2
准教授	14	6	8	0
講師	1	7	5	1
助教	5	6	5	0

※保健科学部：附属東西医学統合医療センター含む

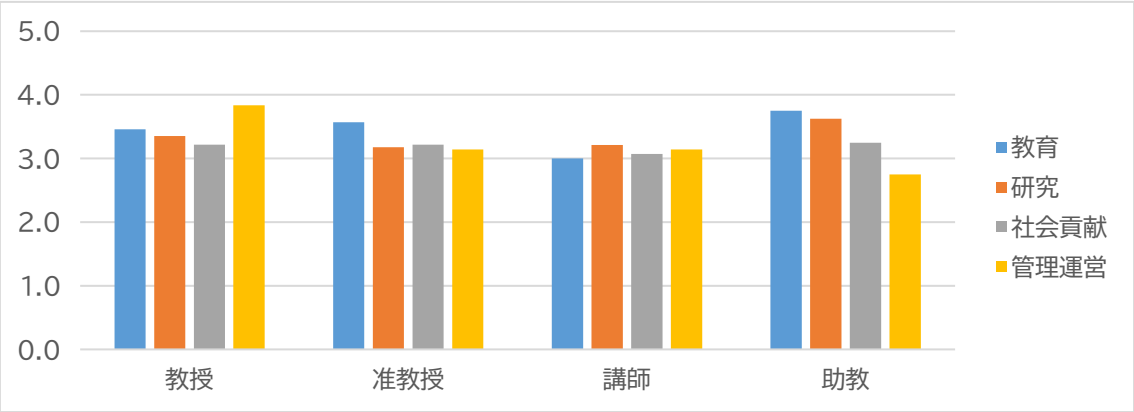
※その他：保健管理センター、学長付

2. 領域評価結果

	教育	研究	社会貢献	管理運営
評点５	17	11	10	12
評点４	30	30	25	19
評点３	31	37	42	54
評点２	15	13	9	10
評点１	2	4	9	0

こちらは4つの領域ごとの評価結果別の人数内訳を示したものです。

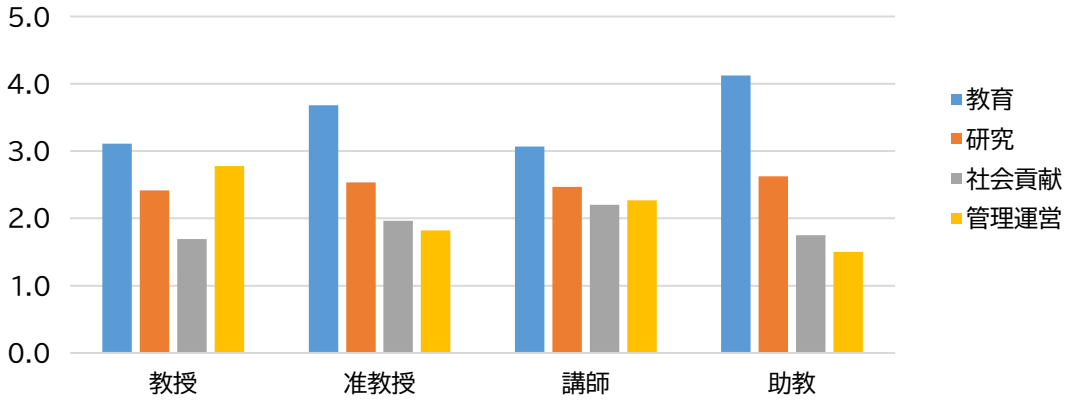
いずれの領域でも評点3の人数が最も多く、評点5は全体の1割程度となっています。



こちらは4つの領域ごとの評価結果の平均を職位別に示したものです。

「管理運営」については教授が他の職位に比べて高く、「教育」については、教授よりも准教授や助教が高い結果となりました。助教については、「管理運営」について他の職位に比べて低い結果となり、これについては委員会委員数等が少ないことが寄与していると考えられます。

3. エフォート率（職位別）



こちらは4つの領域ごとのエフォート率の平均を職位別に示したものです。

エフォート率は、教員の全活動に占める各領域の活動に係る割合を示したものであり、評価の実施に併せて教員が各自の状況について回答したものです。

いずれの職位についても「教育」が最も高く、本学が障害学生の教育に重点を置いていることが教員のエフォート率にも反映される結果となりました。また、教授は他の職位に比べて「管理運営」が高く、領域評価結果と同様の傾向が見られました。